

宮崎卓己 みやざき たくみ（鹿児島県 喜入町漁協）

1960年(昭和35年)、鹿児島市喜入町に生まれる。52歳(2013年時)。

漁家は深海一本釣を専業、鹿児島市の水産高校を卒えて、家業を引き継ぐ。1982年21歳に、父親とともにマチ船みつ丸(19ト)で、尖閣諸島、沖縄近海に出漁する。以来30年余に亘り、同島海域で、マチ一本釣に従事。現在、那覇泊港を基地にした鹿児島船籍マチ釣船は6隻だが、1980年代には20隻は数えていた。今回氏の話から鹿児島漁船の尖閣諸島でのマチ釣の様子が明らかとなり、興味深い。



マチの好漁場 九州以南 ～ 大陸棚 ～ 南西諸島

深海のキンメですか、あれだと、水深500メートル位の、黒潮が通った所、通り道じゃないとしないという話ですよ、このマチちゅう魚は水深が100から200、大体200前後だけど、海底の魚、殆んど瀬(ソネ)に付いた奴、底棲魚だから、やっぱり九州の南側で盛んじゃないかなあ、鹿児島近辺というたらクサガキとかあって、島々の周りとか、海底に場所場所であるもんだから、このマチは、瀬に付いたりしています。長崎辺り、五島とかでも、釣れますかねえ、向こうは、別のタイとかが釣れると聞いたが、行ったことないから知らんけど。ウチらが釣るマチというのは、やっぱり九州から下の方ですよ。あと大陸棚の方とか、大陸棚もやっぱりいますよ、こっちの西の方の、九州近辺から、尖閣まで、ずっと大陸棚がつないでいるから、鹿児島近辺にもいますよ、シチューマチ(アオダイ)は少ないけど、クルキン(ヒメダイ)とか、アカマチ(ハマダイ)とか、ミーバイ(ハタ類)とか。

この大陸棚からドンドン下りていくと、大陸棚の境目(百尋線)がこうありますねえ、(海図を指して)、ここ大陸棚の上がった所にもいるけど、やっぱり、この境目付近が、マチという魚はよく釣れますねえ、水深がまだあるから。鹿児島の東の方から、この東シナ海の大陸棚はずっとつないでいますねえ、ドンドン下りていった各場所、場所に、ポイント、ポイントがありますよ、奄美大島の西位かなあ、その辺からずっと、尖閣まで、点々と、ポイントはありますから。また、こっちの沖縄本島とか、宮古、八重山の周りとか、あと与那国の周辺とか、この大陸棚や、尖閣諸島、南西諸島近辺が、マチ釣の好漁場ですよ。

復帰10年後、沖縄へ 鹿児島のマチ釣船 20隻程いた

ウチら鹿児島の深海一本釣・マチ釣りやっている漁師は、最初は鹿児島近辺でやっていて、それから漁場を広げて、こっちへ来て、段々尖閣方面へ行きましたよ。ウチの親父も、最初は鹿児島近辺で、5、6ト位の小さい船でやってました。今のみつ丸(19ト)を造って、1年もしないうちに、沖縄に来て、あと大正島とか、尖閣とかに、行きよったです。ここに来たのは31年前、丁度沖縄が本土復帰して10年後(1982年・昭和48年)、鹿児島近海から、沖縄へと漁場を広げて、こっちに来ましたねえ。私が水産学校を卒えて、芳栄丸というて、同業者の船に半年位乗ってましたが、そのあとに、みつ丸造ったから、これでウチの親父(宮

崎次雄)と一緒に、来ましたよ。

親父が 51、私が 21 の時です。あの頃は 鹿児島にマチ釣船は、沢山いました。ウチらは、指宿の岩本の港に船を泊めているが、そこに 11 隻、12 隻はいたから。(対岸に陸揚げしている船を指して)、ホラ向こうに、幸丸とめぐみ丸が廃船になって置かれていますよ、あれも鹿児島のマチ船ですよ。鹿児島市内に、あのめぐみ丸、幸丸の他に、昭進丸、喜久丸、吉丸、大幸丸、鶴丸、巖島丸とか、あとの大島船籍で、瑞宝丸とか、琉宝丸とかいましたから。沖縄には、鹿児島のこのマチ船だけで、全部で 20 隻位は来ていたんじゃないですか。また、熊本、長崎からも来てましたねえ。



沖縄県漁連の那覇泊港に係留している鹿児島漁船
左より高治丸、高吉丸、みつ丸等が見える、

県外船が全部で何隻いたか憶えていません、相当いましたから。ここに現在いる鹿児島船籍は 6 隻です。大体大きさは 19 トンクラス、こっちに八坂丸、高治丸と栄丸、高吉丸がいますよ。芳栄丸が来ていない、今は鹿児島の奄美大島近辺で、仕事しに行っているから。

ウチは、親父と一緒に、みつ丸に乗って、宮古、八重山から与那国、大正島とか、尖閣とか、相当廻りましたよ。親父は今年 82 になります。もう 70 手前に、船から下りたから、引退して 10 年ちょっとですな。ウチが船長交代したのが 23 だから、親父もずっと乗っていて、年明けには、毎年、尖閣に行きよったです。

初航海 鹿児島から 3、4 昼夜かけて 直で、尖閣へ

大正島とか、尖閣とか、やっぱり年明けに、まあ 1 月から 3 月、4 月位まで、毎年向こうに行きよったから。その年の初航海は、尖閣には、鹿児島から、山川港から、直で行きよったです。3 昼夜、4 昼夜かけてねえ。初航海は、とくに縁起を担いで、大安吉日とか、いい日を選んで出港するから、それで 3 隻、4 隻一緒になって、その時は、船に旗を立てて、ウチの船は立てないけど、指宿の連中は、やっぱり旗を立てて、出港しますよ(笑い)。

この間、尖閣で中国海監に追っかけられた船ねえ、あの高吉丸と栄丸は、あの時は、遅れて 1 月の末だったかなあ、やっぱり初航海だから、鹿児島から直で行って、大正島をやって、大正島を 2 日商売して、そのあとに、尖閣に行って、そこで操業したら、中国の海監に追っかけられたわけよ。(※報道記事「毎日新聞 2013.2.4」末尾に掲載)

尖閣へは、初航海は鹿児島から直に行って、そのあと 2 航海目、3 航海目は、那覇から行きます。こっちの泊港(沖縄県漁連港)を基地にして、大体 4 月位まで仕事しますねえ。

初航海に鹿児島を早めに出れば、大概ひと月に 2 航海はしよったですよ。あとは 2 ヶ月で 5 航海の目安でやりよったです。魚は、こっちに下ろして、こっちが安い時は、やっぱり鹿児島に また魚種によっても違うから、ミーバイというのは、鹿児島は値がいいから、

その時は、向こうに送ったりして。普通は、単独では出漁しません、何か事故があったり、いろんな安全上の問題とかもを考えて、僚船組んで大概 2、3 隻で行きます。だけど、行く時は一緒に行っても、先に釣った船が 1 週間して帰って、次は 8 日して、また次は 9 日して帰ってと、まとめて帰ったら、魚が水揚げできないから、1 日ずらして、1 隻ずつ帰港してましたねえ。

マチ釣 操業場所、替えて順繰りで、パターン決まる

深海一本釣で、マチ釣りで、あっちこっちに行きました。年の前半は尖閣に行って、また、行けない時は、こっちで、沖縄本島から、宮古・八重山、与那国近辺でやったりして、これが大体 5 月から遅くて 6 月までかなあ。今の 4 月の時期に、前はここから南シナ海辺りにも行きました。それから、大体 6 月から 7 月 8、9 月には鹿児島に帰る。こっちの台風シーズンには、鹿児島近辺でやって、そして後半 10 月以降になれば、この辺が釣れなくなるから、漁場を替えます、小笠原方面とか、また南に下がって行って、宮古、八重山とか、尖閣に行きました。ウチらのマチ釣りは、その時期時期で、何月はどっちに行って、何月はどっちと、大体操業する場所、パターン決まっておって、その順繰り順繰りで、やりましたねえ。



みつ丸(19ト)で 30 年間、尖閣諸島で漁をしてきた

小笠原ですか、向うは 11、12 月の冬場はよく行きましたよ、鹿児島から直で。アカマチが主体で、マグロがはじける前はよかったです、値が大部安くなったから、あれからは大部行ってないです。鹿児島からでは、片道でも 4 日はかかりよった。だから燃料が 8 千リッターから、多くて 1 万リッター使いよったから、今は厳しくて、とても行けないですよ。

台湾アジンコート 南シナ海・東沙西沙にも

尖閣では、大体が大陸棚の境目と島の周辺、大体が領海内 12 マイルで操業しているが、前は魚釣島の 30 マイルとか、台湾近くまで行きよった。台湾近くに無人島が、アジンコートというのがありますよ。あの近くまで行きよった。(海図を指して)、あとソーソネといって、丁度ここになるわけよ、この辺にもソネがあったんですよ、そこで尖閣がダメな時にはここまで行って、また、アジンコートでも、仕事したことがありますよ。だけど、台湾が厳しくなったら行けなくなりました。南シナ海ですか、向こうに行ったのは、熊本の船とか、鹿児島船とかが行ったと聞いていたもんだから、その連中に教えて貰って一緒に行きましたよ。向こうは、時期的に今の時期(4 月)が、丁度一番いい、水温が上がった頃、によく行った。南シナ海は出港してから大体 4 昼夜目に仕事できますよ。台湾の基地がある東沙島とか、また西沙島とかのリーフで、あちはよかったですよ。

クルキン(ヒメダイ)とか、オオヒメとかが釣れよかったが、量的に一番多かったのは、アオダイに縦縞が入った、沖縄でシルシチューといって、アオダイに縦縞の入ったシマアオダイ、あれがいっぱい釣れよかった。だけど、もう値段がやっぱり安いわけですよ、最後に行ったのは平成16年4月やなあ、その時は2回行って、4千和から5千和釣ったが、燃料代差し引いたらいい所なかった。あっちまで4昼夜はかかるから、燃料も8千、9千リッター位は使いよったから。値段は和当たり600円切っていたから、せめて800円はとないと採算はとれない。今はもう南シナ海には行ってない。また尖閣行ったら、台湾近辺、アジンコーともに行けなくなったから、行ってないですよ。

尖閣 いい漁場、1日10時間 釣り放しできる

尖閣だと、鹿児島から直で行くと、大正島には3昼夜かかって早到着く、ここで1日漁をして、大正島を夜走れば、もう明るく日の朝やったら、尖閣に行きよったから。

行きだした頃の2,30年前は、結構釣れよったですよ、3千和から5千和は釣れましたよ。1日400和とか500和とか釣れよったから、だから8回(日)から10回位、商売して帰りよった。それがドンドン釣れなくなって、去年のデータ見れば、やっぱり2千4,5百和しか釣っていない。しかも魚は、結構小ぶりになっている。それでも、他の漁場に比べたら、あっちはやっぱりいい漁場ですよ。

釣り数はないけど、針は9本10本付けた奴に5,6匹とか、1つの下がりにやっぱり食ってきよるから。それとまた朝から晩まで、ずっと釣り放しというか、ずっとはではないけど、また潮が流れてまた潮上りして またそこに道具やって、

で、また船が流れたら、またそのポイントに行って、また一応中に入れる、その繰り返しだから。また釣れなくなったら、またポイント変えれば、1日10時間はできるわけですよ。10時間釣り放しできるから、ウチのみつ丸の場合は、大体6名位、多い時10人位は乗って、釣機は1人2台で、5名入れて、1航海、10日間行って、大体2千4,5百和は釣れますから、上出来ですよ。あっちは、ホントにいい漁場ですから。



1人で釣機2台を使って、海底のマチ釣りに、1日10時間ほど挑む。

漁場の特長 魚群多く 釣れるポイント多い

尖閣での漁場ですか、(海図を見て)、これが大陸棚だなあ、大体がこの大陸棚の境目辺りで漁します、これは水深がずっとある、この凸凹の所に大体魚いるから、ちょっと深めに行ったら、アカマチがいますよ。上がった所にも魚はいるけど、で、久場島のこの周りともまたこの辺でも漁するんですよ、またこの辺も、久場島の周りでもやりますよ、この並びでも北西方、北東方とか釣れよったし、また魚釣島の北西側、ここから12,3マイルこの辺と

か、あとこの真西、東、また大正島の周りとか、結構点々と、結構広い範囲で、場所場所にポイント、ポイントがある。だから、尖閣の漁場の特長は、魚群が多いことと、魚の釣れるポイントが多いことかなあ。

(ブリッジに案内し、GPSの画面を指して)、ホラ、こっちが尖閣で、黄色、赤、白とか、色が付いたのがポイント、ポイントがいっぱいある。ここは赤だからアカマチが釣れたことが分かる、もう島の8マイル以内は、もうポイントだらけですよ。魚群が豊富というのかなあ、ちょっと深りに下げたらアカマチが釣れて、浅りに行ったらシチューマチが釣れたり、それに近くに島があるから、もう絶好のポイントだなあ、島から漁場は8マイル近辺だから、あと天気



GPS画面を指して、「尖閣は魚群が多く、釣りポイントが多い」と説明する宮崎船長

がシケても、もう島陰に避難できるから一番いい、冬場にはもってこいの場所やなあ。

夏場にシケることはないけど、やっぱり冬場に行くもんだから、冬場結構シケますよ、もう波の高さは4メートル、5メートルざらだから、3メートルまでは何とか商売できるんだけど、もう4メートル、5メートルになったら、もう島の近くで遊びがてら、まあ遊ばない程度やるけど、暇つぶしに島の近くで仕事するのはあるけど、夜釣りじゃないよ、昼間よ、午前中、時間つぶしに(笑い)。ずっと寝ているのは退屈だから、ホレ島の近くで、それでも結構釣れますよ。

その時は浅瀬もあるけど、もう小さなアカマチが釣れるポイントもあるから。

シチューマチ、クルキン マーマチ アカマチ釣る

獲った魚ですか、シチューマチ、クルキンマチ、あとマーマチ(オオヒメ)とか、ウチなんかは全部釣りますねえ。アカマチ、あとミーバイとか、カンパチとかを釣れよった、まあ、場所場所でやっぱり違いますよ、糸満の人達は、尖閣では、マーマチが殆んど、あの底(立)延縄でなあ、2500キとか量を釣ってきてよったから、水揚げする時に、こっちでよく一緒になりましたよ。尖閣で、ブダイですか、あれは見たことなかったねえ。あれは2、30メートルとか浅い所に、島の瀬近くにいるかもしれないが、ウチらは浅い所で110メートルの水深から、300メートル位まで、仕事しますから、ブダイは見ませんでした。ホンダイ(マダイ)は、前は尖閣でも釣れよったですよ、今でも釣れるんじゃないかなあ、結構前は小さい奴が1航海に10何匹かは釣れましたよ。水深120から130メートルで釣れていた。あと大陸棚の方も釣れてましたけど、沢山は釣れないけど、レンコダイですか、あれはこっちの大陸棚の砂地の所に結構レンコダイは来てました。尖閣付近では、瀬からちょっと真



釣り上げた魚は、シチューマチ!

っ平らの所は釣れてましたよ、水深 120 でも 200 メーターでも。ウチらが主に釣ったのは、シチューマチ、クルキン、アカマチ、マーマチです。島の近くには、夜寝る時とか、シケで避難する時しか行かなかった。魚釣島に、なんかカツオ工場があったというのは聞いてましたよ。灯台の北の方にあったんでしょ、真っ平らな所ありますよ。島の北の方に、だけど上陸したことはない、ゴムボートかなんかで行かないと、上陸できないから。



尖閣諸島では、シチューマチが多い

サメに、漁邪魔されたら

共食いさせて追いやる

尖閣の島近辺はサメが多かった。魚釣っている途中でサメに食われることは、しょっちゅう、もう島近辺はサメだらけですよ。潮の関係で出ない時もあるけど、もう 1 回目からサメに魚を食われて、商売できないこともあります。賢いサメなんか、船の後ろから付いてきますから、1 投目で魚釣るでしょう、で、サメに食われて、食われるから場所を変えようとして、隣ポイント、1 マルとか行って、2 投目でもまたサメが来て、もうずっと、ポイントポイント、場所を変えても、エンジンの音か、匂いか、何か知らんが、血の匂いは 1 和先まで判るというからなあ。あと、サメは魚群探知機に映る、少し線引っ張って映るから、で、道具揚げる時に、こうサメが魚を食ったら、熱出すのか、音を出すのか、そこが大きくなって、濃くなります。魚探見れば、ああ、誰かの道具にサメが喰い付いて、切られたなあというのは大体分かります。だから、サメがひどい時には、マグロ縄の大きなワイヤーで、シチューマチ一匹つけて、それでサメを釣って、そのまま切って、血を流したまま、その場所に投げておけば、これを共食いして食べるから。もう明るく日には、サメは全部いなくなりますよ(笑)。何か共食いして嫌うんじゃないかなあ、はっきり分からないけど、サメに漁の邪魔された時は、このサメ釣りをやれば、結構効果はありました。大体 5 日から 1 週間位は効果あります、ホント、あのサメはどこに行ったのと言う位だから。だから、ひどい時には、サメ釣りして、共食いさせましたねえ。八重山では、年に 1 回位サメ駆除してますねえ、捕って持ってきたら、そのヒレで幾らと補償している見たいで、ああやったら全然効果ない、ただ数は減るかもしれんが、魚釣るには影響ないというか、それより、サメ釣って、そのまま切って、ホラ血を流して、その場所に放流すれば、いなくなるからと、鹿児島では昔からそうしてました。だから、ウチの親父と乗っていた頃から、サメがひどい時には、サメ釣しよったですよ。宮古、八重山にも、サメは結構いましたけど、尖閣でも、もう島の周り、大体島から 3 マル以内には、いっぱいいましたねえ。このサメ釣も大変ですよ(笑)、サメ釣る時、引っ張って、もうワイヤー切れたり、外れたりして、ウチは、この前なんかは、釣機の太鼓がホラ、サメが暴れて引っ張って、このリールが逆にバナーと回ってパーンときたもんだら、こっちの手首を傷めて、長い間重いものが持てな

った(笑い)。サメの種類ですか、大きいのはあのイタチザメ、あれはなかなか、釣るのはちよつと無理だなあ、300 疋もあるから。せいぜい 100 疋前後なら、またあれはヨゴレザメというのかなあ、背ビレが白くない奴、普通はあれが多いですよ。

電波状態悪いと ポイントに旗立てて 操業

尖閣で事故とか、トラブルですか、ウチはなかったなあ。他の船で、ホラ波が急に乘っかってきて、波に流されて、デッキの角で頭打って怪我したとかはあったけど、ウチら鹿児島島の船で大きな事故というのはありませんでしたよ。

また、今は船の位置、緯度経度見るのに、あの衛星の、GPSがあるから便利だけど、最初は、ローランCとか、Aとかでやってましたよ、あれは2箇所からの電波交差させて、船の位置を割り出す方式だから、尖閣では、一瞬電波がザラザラなって、そのポイントに行けない時がよくありましたねえ。その時はもう大体勘でやってましたから(笑い)。

電波状態が悪い場合は、ポイント探したら、そこにアンカー入れて、その上に浮き付けて、竹竿に旗を立てて、それを目印にして、仕事したことがありますよ。南シナ海に行った時も、それでよくやりよった。あつちは中継基地がないから、ローランは使えんから。

尖閣では潮の流れが速いから、ポイントに旗立てるやり方は便利でしたよ。釣っている間に船が流されても、すぐ元の場所に行けるし、またどっちに流れたか、すぐ分かるから。もう場所場所で、条件も違うし、不都合もあるから、あれこれと工夫しましたねえ。

無線業務日誌 漁場、水揚げ高を記録

(無線業務日誌を持ってきて) これは毎日無線局にする業務日誌で、自分なりに使って、1 頁を使って、1 航海分かなりやすいように、何年はどこに行ったと書き込んでいる。1 番古い奴ですか、平成 9 年の後半位からしか残ってない。その前のものは処分したのか見当たらない。これに尖閣の漁もありますよ。平成 17 年を見ると、やっぱり早い時に 1 月 12 日、初航海、山川港から出港して、沖縄で水揚げして。操業場所は、ワレメと書いているが、このワレメというのは、丁度大正島と尖閣の中間の所なあ、

魚釣E22 だから、東 22 マイル、これは尖閣Wだから西 7,8 マイル近く、31 は 31 箱のこと、赤 10 というのはアカマチが 10 箱は入って、また近くを見て、NW10 とあるから。ここは尖閣の北西方 10 マイル、48 箱だから 500 疋釣れて、この最後の北上、久米Wは久米島から 80 マイル西にまたアカマチが釣れるソネがあつて、そこで 200 疋釣って、8 回商売をして水揚げが 2,735 疋だから約 2.7 トン、疋単価 809 円で、221



平成 17 年の初航海を記した無線業務日誌
魚釣島での操業場所、水揚げ高が分かる。

万円か。こうして、これを見ると、いつ何年にどこに行つて、その時期はどの辺で商売をして、その時の漁のようすも、水揚げも、値段も分かるから

尖閣でのマチ釣船 大半が鹿児島・熊本・宮崎の県外船

尖閣に行き始めの頃は、あつちにどんな船が来ていたかあんまり憶えてないなあ。

親父と船長交代してまだ見る余裕がなかったから(笑い)。でも、結構マチ船はいました。那覇地区とかの小さな船は沢山見なかったけど、県外船が結構いましたねえ、ウチら鹿児島だけで 20 隻はきていましたから、あとは熊本とか、宮崎とか、大分とか、また長崎からも来てましたから。宮崎の船は宏漁丸、大分は第一宏栄丸と第三宏栄丸とかいましたねえ。この第三宏栄丸は、今はこっちの新垣水産という問屋が買って、鹿児島の人間に船長させて、漁はウチなんかと一緒に、尖閣に行つてますよ。長崎の船ですか、長崎の連中は、大概大陸棚の 80 メーターか 100 メーターの水深で、夜イカを釣つて、それをエサにして、ミーバイとか、カンパチを釣りよつたですよ。その大陸棚は尖閣までつないでいるから、長崎の一本釣船が尖閣にも来たりしよつたよ。また長崎から巻網船が、もう大部前になるかなあ、ウチなんか巾着船と言っているけど、4、5 隻で船団組んで来てました。鉄船で青色にブリッジが黄色かなあ、前の船名の横に日の丸付けて、船団で尖閣に来てました。もう見えなくなつて 10 年もならないが。あと糸満の小さな船が、底立延縄船がマーマチとかを獲つてました。常丸とか、カネイチ丸とかいって、こっちで水揚げで一緒になりました。だけど、尖閣でやっているのは見たことなかったですねえ、ウチなんかと操業している場所も違うから。あとは台湾船、あれは結構見ましたよ。

台湾・中国船 根こそぎ獲つて 10 マイル沖 魚釣れない

台湾船は、ウチらが来た頃は、タライに乗つて、あれでサバとか釣つてましたよ。その前は、竹の筏に乗つてやっていたと聞いてますよ、台湾のアジンコー(彭佳嶼)とか、カトウショー(紅頭嶼)に行った時に、それを見ましたが、あの時は、ビニールパイプの筏でした。

尖閣で見たのは、タライに乗つて漁をやつてました。1 隻の船に、大体 10 人位が乗り込んでいて、1 つのタライに 1 人ずつ乗つて、サバなんか釣つてましたよ、あの頃は結構サバは多かったから。向こうは潮が速いから、タライはすぐ遠くに流される。そしたら、皆乗せてきた船が、急いで追いかけていって、拾っていたんじゃないかなあ(笑い)。

でも、今は台湾船といえば もう遊漁船ですよ。沖では、この釣船をよく見よつた、12 マイル沖の方でも、釣客を乗せて、集魚灯ですか、電気を沢山点けて、ずっと夜中も電気点けて、ずっとやりっ放しで、釣竿で底魚を釣つてますよ、深海は、200 メーターちょっと、浅い所は 150 メーター位かなあ。釣る魚、釣る場所は、ウチらの一本釣りと一緒、それを釣竿ですつとやっている。釣客 10 人位を乗せて、皆竿釣でやっているから。ホラ、前に尖閣の島近くまで来て、保安庁の巡視船とぶつかりトラブル騒ぎを起した釣船、遊漁船ですよ。

あれが尖閣近くまで来てやっている。そんな何 10 隻は見えない、ポツンポツンと 4、5 隻

位が見えるだけだが、あと昼間に肉眼で 2、3 隻は見える場合もあったけど、あんまり近づいたら、海上保安庁が追いかけるから(笑い)。だけど、あれは相当影響していますよ。もう 20 年位前から来て、もう毎回ひっきりなしに来ているから。それと中国トロール船も来てますねえ、中古船見たような大きな鉄船で、あれは前は尖閣には来なかったけど、10 何年前から相当来るようになって、船団組んで来て、底曳きでしょう、もう一網打尽、小さい魚も、全部。だから、台湾の釣船と中国のトロール船が来て、尖閣の魚を根こそぎ獲ったもんだから、島の 10 マイルから沖の方は、もう魚釣れないですよ、魚はいないんじゃないですか。

中国サンゴ船 沖縄近海 漁場壊して 魚いなくなる

(海図を示して) あとこっちの方に中国のサンゴ船が、宮古の宝山と東大九とか、久米島の北西のソネとか、2、30 隻とか、4、50 隻いるという話、だからこの辺は近づけないですよ。

ウチらの漁場もここだが、中国のサンゴ船がもう多くなって、この近辺で操業できなくなって困っておる。それに尖閣とか、八重山・与那国とか行った時の丁度帰るコース内になるから、だから、北か南かに避けて、またコース変えて帰っている。だけど不思議なのは、この中国のサンゴ船だなぁ、もうやりたい放題だが、それは日本が昔許可出した何かで、やっとなるから、水産庁は取り締まれないと、他の連中は、そう言っているけど。それは腑に落ちない。なぜなら、サンゴ漁はワイヤー網を曳いて、海底のサンゴ礁を壊すから、国内の漁業者に対して簡単に許可しない、なら中国には許可するはずがない。だけど中国のサンゴ船の操業が殆んど黙認されているのが現状で、やっぱり取り締まれない他の理由があるのか。



宮古沖で違法操業で逮捕された中国サンゴ船。大半が操業が黙認？(2013.3.5 石垣海上保安部撮影)

そうでなければ、日本の海なんだから、国は、中国サンゴ船を徹底的に取り締まってほしいよ。もうウチら漁業者にとって、大変な打撃なんだから。この前 3 月に、尖閣に行けないから、宮古の宝山ソネに行って、そこで 2 日商売したら、もうだめやったねえ。今の時期やったらホントはいいはずだけど、ホラ、中国のサンゴ船が、サンゴ網曳いて漁場を傷めてしまっているから、もう魚はいない状態ですよ。

あと南の方にもサンゴ船がおるといふから、それで大正島に行きましたよ。その時は、水産庁に連絡して行ったけど、勿論、危険承知ですよ。

大正島行って、3 日商売して、無事帰ってきたけど(笑い)。だけど、そうでもして魚釣ってこないと、ウチら漁民は食べていけないから。

国は 尖閣での安全操業の実現 沖縄近海漁場の保全を

去年の暮頃だったかなあ、尖閣を国有化したからといって、今度は海監といった、あの中国の監視船が尖閣に何隻も来ているから、今年になって、ウチら鹿児島島の船 2 隻が、初航海で、尖閣行ったら、あの海監に追っかけられて、もう大変でしたよ。あんなひどいこと初めてですよ。そのあと、ウチらも宮古島に行って、宝山ソネがだめやったから、大正島に行って、仕事してきましたけど、今年は、尖閣行ったのは、この 1 回だけだから。

もう前のように尖閣に行けなくなって大変困っています。向こう行ったら、魚は確実に釣れるし、量は釣れよったから。それで皆口を揃えて言いますよ、今年はどここの漁場で魚釣ったらいいのか、行く所がなくなると。それに現状では漁場が限られているから、尖閣に行けない分、もう他の所に行ってみても、ホラ、中国サンゴ船が、宝山とか、大九とかで、サンゴを採って漁場を荒らしていますでしょう、あのサンゴ船の操業をやめさせなければ、沖縄近海の漁場は、もうだめになって、魚はいなくなりますから。

そうすると、私ら漁民にとって、これは死活問題ですよ、もう大変な問題ですから。

国に対する要望ですか、ですから、まず第一に、ウチらが今までのように尖閣に行けるようにしてほしいことです。第一に、尖閣で安全で安心して操業できるようにねえ。それと二番目は、沖縄近海の漁場を守ってもらいたい。そのためには中国サンゴ船の操業を取り締まってほしいです。この 2 つを国に対して、強く要望します。

※参考資料：新聞報道記事

尖閣周辺領海に中国漁船 2 隻侵入 漁船に接近し操業妨害

沖縄県・尖閣諸島周辺の領海内で今月 4 日、中国の海洋監視船 2 隻が鹿児島県の漁船 2 隻に 1 かり(1852 メートル)にまで接近していたことが 28 日、関係者への取材で分かった。同県漁連は漁の妨害行為として、水産庁に安全な操業ができるよう要望書を提出する方針。漁船 2 隻が所属する同県指宿漁協などによると、監視船の接近を受けたのは、高吉丸と栄丸(ともに 19 ト)。高吉丸の高杉忍船長(52)によると、4 日正午ごろ、魚釣島西の海上で一本釣り漁をしていた 2 漁船の西側沖に、中国の監視船が確認されたという。監視船が漁船に向かってきたため操業を中止し、近くにいた海上保安庁の巡視船の指示で魚釣島に船を寄せて避難。巡視船が監視船と漁船の間に割って入る形で停泊するなどして保護したが、2 漁船はその後、約 5 時間にわたり避難を続けたという。高杉船長は「年に 1、2 回は中国船を見るが、今回のようにここまで接近してきたのは初めて」と話した。第 11 管区海上保安本部によると同日午前 9 時 25 分ごろ、領海に中国の「海監 46」と「海監 51」が侵入。午後 11 時 40 分ごろに出て行ったという。

【垂水友里香】

(毎日新聞 2013.2.28)

尖閣諸島で操業している県外漁船(1)

鹿児島船籍マチ釣船



みつ丸(船長：宮崎卓己、19ト)



高吉丸(船長：高杉忍、19ト)



栄丸(船長：高橋一雄、19ト)



八坂丸(船長：坂元明、19ト)



高治丸 (船長：高田哲司、19ト)



芳栄丸(船長：高木徹、19ト)



第八幸丸(廃船、19ト)



第三めぐみ丸(廃船、19ト)

尖閣諸島で操業している県外漁船(2)

熊本船籍マチ釣船・底延縄船



マチ釣船・福栄丸(船長：野口登美、19ト)



右舷には何台もの釣機が



釣機に撒きエサ袋が付いている



マチ釣船・海栄丸(船長：丸山文博、19ト)



底延縄船・右豊丸(船長：久保一、19ト)



沢山の水揚げ、アーラ(ハタ類)か

丸山 文博 まるやま ふみひろ（熊本県 樋島漁協）

1965年(昭和40年)熊本県天草郡樋島に生まれる。50歳(2015年時)。
父親の代に深海一本釣を専業、1972年日本復帰の3日後沖縄に来る。
以来那覇泊港を基地に尖閣諸島に出漁、父から家業を引き継ぐ。

18歳に海栄丸(19ト)に乗り、30数年間、深海一本釣に従事する。

熊本船は3隻が早い時期に尖閣諸島に出漁していたが、現在海栄丸1隻だけである。氏は熊本から沖縄に移り住み、沖縄嫁をもらい、那覇泊港を漁業根拠地にして、今なお南西諸島、尖閣諸島での一本釣に専念している。

一時は、南シナ海、小笠原海域まで遠出している。氏にこれまでの一本釣体験の話を伺った。
30数年に及ぶ貴重な体験だけに、我々に多くことを教え、学ばせてくれる。



天草の樋島 一本釣船 10隻いた

一 海栄丸は熊本船籍ですねえ、熊本からだど、意外な感じがしました。九州から尖閣諸島に行った船、カツオ船とか、サバ船とかは、主に鹿児島と長崎からでしたが。

丸山：深海一本釣では、鹿児島、熊本、長崎、大分、宮崎の船が行ってましたよ。尖閣諸島には、福岡と佐賀を除いた九州各県からですねえ。それに熊本は、鹿児島とは隣同士だし、長崎より沖縄に近いさあ(笑い)。鹿児島では昔から一本釣が盛んだから、この一本釣を鹿児島から習ってきて、俺達の先輩とか、親父達なんかは、やったかも分かん。熊本で一本釣り船といえば、皆俺達の島、天草郡樋島の船だよ。樋島という所はちっぽけな島で山が多くて、農業なんかでとてもは食っていけないから、漁業に従事する人が多いさあ。ウチの親父達は、俺が生まれる前はトンネル掘りに行ったりもしていたから。親父



二代目海栄丸(19ト)と丸山文夫船長

は20過ぎ位から漁師やっている。樋島には当時船は10隻位おったはずよ。一本釣も、延べ縄(延縄)も何でもやった。種子島近海でイセエビとか、あんなも捕りよった、カゴとか、網とかで。今の福栄丸の野口登美さんが10代の頃、野口さんのお父さんがやっていたと、今の船長達は乗り子として、親父も一緒に行ったと言うていた。当時は俺はまだ子供だったけど、そういう記憶はある。

他の部落の船だと、延べ縄が多いですねえ、皆延べ縄で五島に行ったり、奄美付近の十島行ったり、また佐賀の漁師はイカ釣りやっているし、一本釣りはホント少ない。延べ縄だったら、人数の割りに、船員が少なくてすむから。

一 その一本釣を続けてきて、奄美大島から南へと 漁場を広げてきたわけですねえ。

丸山：樋島に10隻位あった船は、昭和50年から53年頃に高度成長期に、5隻が船を造り替えるんだとって、木船から今のFRP(ファイバー)のマグロ船に替えたわけ。当時成功してよかったんだけど、今度マグロ船減船とかで減船されて、今は1隻も残っていない。

で、残りの4隻がそのまま一本釣やったわけ、ウチの海栄丸(19ト・丸山文夫船長)、明星丸(19ト・山中船長)、福栄丸(19ト・野口登美船長)、豊清丸(19ト・白浜船長)の4隻がねえ。野口さんは20歳位、今60歳だから40年前からこの一本釣専門に始めて、ウチの親父なんかはそれの大部前からやっていたましたねえ。

最初の頃は、鹿児島辺りとか、種子島とかで、それから徐々に徐々に、漁場が南に下がってきて、その頃にはもう白浜さんの豊清丸は辞めてました。それでウチら3隻は、奄美大島から沖縄、宮古、八重山に下がってきて、尖閣諸島に行くようになったわけですよ。

ウチの親父達は、大正生まれの先輩達から、終戦直後ですか、トカラ列島とか、尖閣諸島とかに、向うでマチが釣れるからと、一本釣りで行ってたという話を聞いていたようです。それで沖縄が復帰してから、尖閣諸島に行こうとこっちに來たわけですよ。

熊本船 復帰の3日後 沖縄に

一 沖縄は昭和47年には日本復帰したから、それでこっちに來たわけですねえ。

丸山：そうです。ウチの親父達、熊本船3隻は、沖縄県が日本復帰した日(1972年5月15日)の次の次の日には、沖縄に入港しています。復帰後3日目には入港して魚を売ると來たんだけど、まだそういう状態じゃなくて、魚は売れたが、全部売れなくて、残りは鹿児島に持ち帰ったそうです。親父は沖縄には自分達が多分一番で來たと言っていましたよ。

もう43年前の話です。その時は、親父は昭和15年生まれだから32歳、僕はまだ7歳ですよ。復帰前は、アメリカの統治で、沖縄本島の港に入れなから、熊本船は鹿児島を基地として、沖縄近海から、宮古、八重山、与那国まで、ずっと仕事に來ていた

沖縄の港に入らずに、与那国とかでは、風が吹いたりしたら島影に隠れたりして、仕事やって、4昼夜かけて鹿児島に帰っていたようです。

沖縄が日本復帰したからが、こっちの港(那覇泊漁港)に船着けるようになって、ホラ前は仕込みなんかできなかったけど、今は氷を積んだり、燃料積んだり、魚を下ろしたりができるさあ。こっちを基地にしたら、漁場も近いから、尖閣諸島に行くようになったわけ。

で、親父の弟達、叔父さん達も、一緒に來て、あっちの魚は釣れ方から見ると、そんなに魚が釣れるのかと思う位、もういっぱい釣れた。一本の針に、もうアカマチ(ハマダイ)



深海一本釣船・海栄丸(19ト)、那覇泊港基地に周年操業

なんか、2匹共一緒に食って、びっくりしたと（笑い）。漁はもうそんなして釣れる位、沢山あったと言ってましたよ。

18歳船乗る 30年余り 尖閣で一本釣

— こっちを基地にして尖閣諸島に行って、丸山さんは幾つの歳に船乗ったですか？

丸山：僕は18歳(1979年)から乗っていますよ。もう時期なると親父と一緒に、尖閣には毎年、こっちからずっと行ってましたから、かれこれ30年余りになりますねえ。

18歳からもっぱらこっちにいて、だから僕なんかも思春期に、子供の頃付き合っている女の子もいたけど、もうダメさあ、熊本には帰らんから。もう親父達も一生懸命やっていたから、帰らずに頑張ろうと言えば、帰らずに頑張るしかない。で、ずっと頑張って、そんなことやったら女の子も、もう友達も全部なくなったよ。だって帰れないのに。

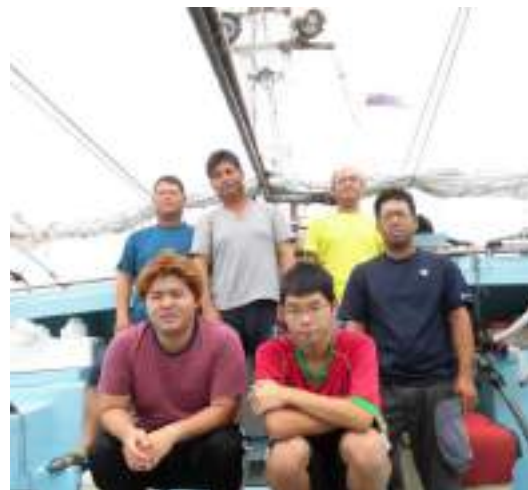
そのくせに親というのは勝手なもので、早く嫁さん探した方がいいよと言う（笑い）。

でも、縁あって、今の家内に出会って一緒になったんだけど、やっぱり、それだけずっと沖縄にいるということですよ。子供達2人はウチナーンチュ(沖縄の人)。僕は内地の人だけど、家族はもう皆沖縄の人ですねえ（笑い）。

親父が船辞めたのは5、6年前です。65歳で辞めてから、今は隠居しているけど、元気です。僕は長男だからやっぱり親父のあと継がんといかんから。20歳で小型船舶操縦士の資格はとったけど、親父がずっと頑張っていたから、引退間際に船長なった（笑い）。船長としての実績はまだまだ、これからですよ。

ウチの海栄丸に乗っている6、7名、前は親父の弟達、叔父さん達がいましたが。

(船で仕事中の船員を指して) あれが僕のすぐ下の弟の丸山仁、こっちは三男(史朗)、こっちは一番下の叔父(明男65)とその長男(明任)、残りは見えないねえ。全部身内だけの6、7名。俺の責任は重大さあ、皆生活させて食わさんといかんから（笑い）。だけど生活もあれだが、一番気を使うのはやっぱり航海安全ですねえ。事故でも起きたら、もう一族が減びるから（笑い）。



海栄丸の甲板上で、左より後列：丸山文博船長(50)、弟の丸山史郎(45)、丸山仁(48)、中列：従兄弟・丸山明任(38)、後列：長男の知哉(20)、甥の航平君。

30隻余県外船 沖縄基地に 尖閣諸島へ

— 那覇泊港を基地に尖閣諸島に行った県外船は、他にどこから来てましたか？

丸山：前はあっちこっちから来ていたけど、今は熊本船と鹿児島船だけですよ。

熊本船は年中ここにいます。海栄丸と福栄丸はずっといる。沖にいておる間いないだ

け、年から年中いますよ。それで12月から翌年の3月までは尖閣諸島に行ってます。

鹿児島島の船は7月頃までこっちいる。12月頃から来る。で、6、7月から11月まで5、6ヶ月位は鹿児島島の近くの奄美諸島とか、トカラ列島とかをやっている。

前は相当来てましたよ。もう30隻あまりもいたから、俺達熊本船に、長崎船やろ、鹿児島船、宮崎船、大分船も。今の宏栄丸というこの船よ。この船の元々の持ち主は大分の人だから、この船がこっちに来ていたから、めぐみ丸、鶴丸、菊丸とかは宮崎船だから、鹿児島に移り住んで鹿児島船だけど、元は宮崎の人なの。長崎も結構おったけれど、こっちに入港しないわけ、常駐しないで長崎に帰って行く船が多かったですねえ。東シナ海の大陸棚を下りてきて、尖閣諸島近くに来ていますよ。俺達の漁場が一緒の所までねえ。大分船、熊本船、鹿児島船なんかは、前は南シナ海まで、一緒に行って。この宏栄丸は香港まで行ってましたよ。この船すごかった、大分の人がやっている時は、あっちこっち行っている。



尖閣への出漁を待つ熊本船と鹿児島船、右端は福栄丸

南シナ海・東沙諸島へ 4、5昼夜で 行けば 釣れた

ー 沖縄を基地にして、南シナ海に、深海一本釣りに行ったわけですねえ。

丸山：俺達も南シナ海にも行ったんだけど、さわりの程度ですよ。この人達プロだったもん。南シナ海で主にシルシチュー(シマアオダイ)とねえ、あとはクルキンマチ(ヒメダイ)、とマーマチ(オオヒメ)。アカマチはあんまり釣れてなかったねえ。

沖縄から4昼夜、香港沖まで行けば5昼夜ちょっと掛かる。ほんのゆっくりゆっくり行ってよ。もう燃料も焚くかんように、もう積んでいる燃料も限られているさあ。

行きさえすれば釣れていたみたい。だからすごく大漁してきましたよ。南シナ海は東沙諸島。その北西側に10時間位走らして、ベイカバンクといって瀬があるんですよ。そこによく行っていた。それからまた70マイル位走ると香港の近く、香港の南の方の瀬に、こちまで行って。僕らもそっちまで行ったことある。今位のメンバー7名位で、時期は気象見て判断して、もう台風の時に行かない。長男が生まれる2、3年前まで行きよった。

4カ年位行ったねえ。(1988年～1991年?) 4年ってみっちりじゃないよ。1年のうちに行く時は4航海、行かん時は2、3航海、全部で10数航海位。

で、宏栄丸は、僕らが行く前の頃は1年の半分は南シナ海に行って、それでうんと儲けていたはずよ。向こうは、あとクルキンマチ、マーマチも乗せてきよった。

僕らはシルシチューとクルキンマチ多かったねえ。シルシチューに当れば速い。ほら大きいからねえ、仕事も速いんだけど、結構量はありましたよ。行った甲斐はあった。

あの時は値段はよかったから、僕達も少しは儲けたから（笑い）。

1 航海 水揚げ 5,6ト 主にシロシチュー 値安かった

— 中国は、南シナ海でも領有権を主張してますねえ、中国船は多かったですか？

丸山：中国の船はあまり見なかったけど、台湾船は沢山いたよ。台湾船は延べ縄船が多かった。しょっちゅういたよ、カンパチ、ウチムルー(ヒレナガカンパチ)よ、あんなの獲っていたみたい。だから台湾船探して、僕ら喜んでましたよ。台湾船がいるから、この辺に魚がいる、漁礁があるってねえ（笑い）。釣れたらそこにブイを入れよった、ブイのアンカーを。もうこれがないと仕事できないですよ。だからすぐ入れよった。どんなに釣れても、2回目にその魚探しきらんのに。ローランがいうこと利いていないさあ。大体の場所は分かるけど。あっちの深度は魚探で、120、130メートル位、どんなに深くても150メートル位、100メートルちょいの所もあった。潮の速い場所もあれば、いかない時もあった。

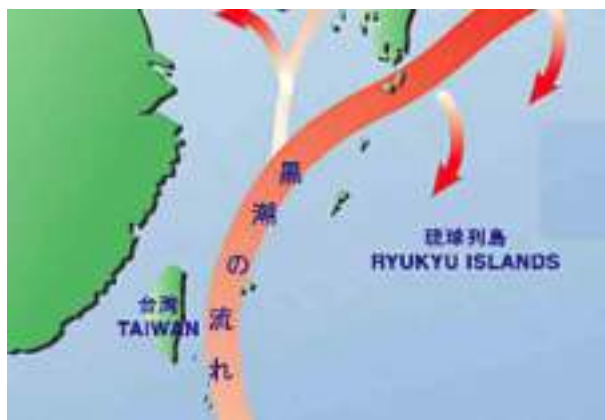
だけど、南シナ海の魚は魚質がちょっと違うんじゃないかなあ、魚のセリに卸したあとでも、1隻目は幾らかよかったけど、2隻目は安いとか、そういう魚の状態だから。

やっぱりあんまりいい魚じゃなかったねえ。主にシロシチュー、全部が全部、各船そんなでしたよ。だから船が何隻も続いたら安くなりよったもん。こっちの魚もそうだけど、どんなにシケている時にも安くなりよった。量が多いのもだけど。やっぱりいい魚だったら、ある程度値段は持ちますよ、量が多くて。でもメチャクチャ量が多かったからねえ。1隻5、6ト全員獲って来よった。遠いから経費も掛かるが、それでも儲けはあったから、皆行っていたんじゃないか（笑い）。

3月～5月 航海2週間弱 黒潮に乗って 帰り速い

— 行ったのはいつの時期ですか、1航海何日位ですか？

丸山：南シナ海行ったのは、大体3月終わりから5月始めに行ったのかなあ？ 3月4月までは冬の季節風が向こうにもあるわけよ。こっちにもあるけど、寒い時期はダメだった。行く時は台湾よりずっと東側を通って、黒潮が通らん所を蛇行していくわけです。最初は何回か、与那国から直接行けば船がへんに動かん、でも近距離ではありますよ。最短距離で行こうとしたら全然船が動かん。それよりもずっと遠回りして行った方が船が走る。遠回りだけど、船の速力倍違うのに。航海日数は2週間までいかない。仕事7回位で帰ってくればよい。5昼夜で走って行っても、帰りは4昼夜半で、帰りは速いですよ。



黒潮本流に乗れば、10ノット以上は走る、帰りは速い

黒潮に乗ってくるから、台湾の後ろ通り、台湾が見えたら、黒潮は結構速い速い、与那国までは、もうほんと。だからここを船が走る時に、北の風に遭うと、もう目茶苦茶シケますよ。潮はこっちから、風はこっちからだから。

台湾から与那国までは10ノット以上で走る。僕らの船でも、台湾の近くは13ノット位ですよ。

黒潮は八重山・宮古からは離れて流れているから、その上通っていけばいいさあ。八重山はすぐ近く黒潮だけど、宮古島に寄せると走らんけど、離して走ると船速い。

アカオ(大正島)辺りに持って行かないけど、結構速かったですよ。

今は、中国が南シナ海の領有権主張しているさあ、紛争地域だし、もう行けない。20何年前に行ったきり行かない。あの時僕は新米だったから、いつも拿捕されたら大変という気持ちがあったねえ。その点、小笠原も遠かったけど、向うは安心して行けたさあ。

小笠原 冬場毎年行った 5ト水揚げ

一 小笠原も行ったわけですねえ、漁はどうでしたか？

丸山：小笠原へは毎年冬行っていた。年明けた1月から。いい時は3航海位、悪い時は1航海、2航海でしたよ。行ったのは27年位前、2年位行ったから。(1987年～88年か?)

小笠原は沖縄からは行っていない。鹿児島から4昼夜、北硫黄島まで。

鹿児島港を朝8時に出港して、錦江湾をこう出て、もう出る時には夕方だからねえ。錦江湾は結構遠いですよ。で、夕方佐多岬を通るから、佐多岬を通過して、それから4昼夜目の朝の4時頃、北硫黄島が見えていたのに。冬でも、あつちは3時半に夜が明ける。もう4時5時といったらここに太陽ある。沖縄に比べたら1時間半位早い。九州では6時といったら夜も明けないけど、小笠原は早い、でも夜も早い。

1航海、2週間はゆっくり掛かってましたねえ、2週間では足らんから。硫黄島は全部廻ってましたよ。北、南まで、小笠原の許可貰ってからねえ。あの東京都の許可、許可持っていないとやっぱり難しかったもん。だから今でも持ってますよ。小笠原の漁業権は、行かないけど。漁は、結構ありましたねえ、いい時はすごかったよ。

俺なんかがいる時5ト位。小笠原は冬だから、結構長い日数やって、10日位操業当り前だった。だから魚の鮮度はあまりよくない。あの当時だから売れたけど、今だったら売れないはず。魚は殆んどアカマチ、8割アカマチだから、3ト半、4ト位は獲ってくれば、もう500万位は売れたもん。ない時もありましたよ。遠いから経費は相当かかりましたねえ。でも当時は油は安いから、燃料が安いし、氷も。積み込んでいっても100万円以上積んで行ったはずよ。俺詳しいことは知らんけど、燃料10ト以上は使った。僕らのこの仕事、10ト・1万リットルといったらかなりの量ですよ。

マグロ船は30トとか、簡単に言うけど、僕らの一本釣の水揚げがそんなにないさあ。

今は油も相当高いし、もう小笠原に行くのは無理だが、行ってみたい魅力ありますよ。

やっぱり先輩達が行って成功しているから。今は僕らが行かなくて、宮崎の船はしょっちゅう行っている。静岡の船とかもいるみたい。そういう話を人から聞いてますが。

燃料 高騰 3倍以上 魚値段 一緒 もう遠出できない

— そのあと南シナ海、小笠原に行かずに、もっぱら南西諸島、尖閣諸島ですか？

丸山：そうそう、もう今は燃料も高くなって、もう前のように遠出できない。もう沖縄基地に自分で決めているからさあ、もうこっちだけ、与那国と尖閣諸島だけ。九州にも行かんよ。ただ奄美海域まで仕事に行きますけど、それより北にも行かない。

燃料の重油は、前は30円代でしたよ。もう何年前かなあ。今は約100円、3倍以上。

一番安い時は29円か幾らで済んだ。前は消費税もなかった、今は90何円に消費税だから100円越える。それに比べたら魚の値段はずっと一緒よ。他のものは皆値上がりしているけど、インスタントラーメンでも当時4、50円しかしなかった。今は100円近くする。それでも魚の値段はずっと一緒か、横ばい。それだけ俺達漁民の仕事は苦しくなっている。

沖縄を基地にしているから、もう遠くには行けないし、行かないです。

で、4月から6月、7月から9月の春と夏は、夏は台風時期もあるから、尖閣なんかに行かない。与那国から宮古・八重山、沖縄本島、たまには奄美海域とかに。

尖閣は10月から3月までは冬の時期がメイン。だけど一昨年(2013年)は行けなかったさあ。中国の海警に追いかけて、ああいうこともありますよ。とにかく仕事はそのパターンでやっています。

大正島から操業 徐々に西へ 魚釣島へ

— 尖閣諸島は10月頃から行って、向こうでどのように操業するんですか？

丸山：最初の10月頃はこの大正島、大正島から、徐々に徐々に、西に行くわけよ。

大正島で釣ってから、何日か釣って帰ってきて、その間には3週間位は掛かるから、だから尖閣諸島には10月の終わり頃か、11月の初めには行きます。

これも天候次第です。北の風が早く吹けば、早く行くねえ。黒潮が北の風になるとちょっと緩むから。昨日まで北の風だったけど、今日は南東の風になると、黒潮に油を注いだみたいにゴーゴー来るよ。

尖閣では潮の流れが風向きでは全然違うんだから、昨日までなかった潮が今日はすごいです。昨日まで例えば500疋釣れた魚が、今日は100疋も釣れないよ。そんなに変わる。だからもう明日からダメになるねえ、低気圧が、ほら冬はこないけど、秋になると何日かおきに来るねえ。低気圧が来て、明日からもう南東の風が吹くならもう諦めておいた方がいい。それから2日間は今日は南、南西と回るでしょう。それから前線通過で北の風が3日間吹くさあ、その3日間位はいいけど。



魚釣島沖での操業光景。潮の流れと風見て、一本釣の縄入れる。魚食い付いてきたようだ！(宮崎卓己 2014)

そのうち1日位風の時はあるから、大体がこれの繰り返し。夏場は潮が速くて、潮が悪い、だから魚も釣れないですよ。魚釣島辺りはやっぱり夏は潮の力強いから。だけど、冬場で、どんなに潮がよくても、魚は釣れない時は釣れないですよ。魚が釣れる関係と潮の関係はよく分からない、丁度いい時に行かんと漁はダメですねえ。

— 大正島は突き出た岩山、潮が速く、アンカー入れるのは難しいと聞きましたが？

丸山：アンカー入れてますよ。シケている時はちょっと入れ難いけど入れます、島の南側で。あんまり陰にならんけど、リーフがあるから、もう洋上にいるよりずっとまし。

でもその時は潮の流れやらんと、潮がシマガッテ、潮が西から速い時は船が島に寄って行くわけよ。油断したら座礁するから、だからできるだけちょっと島から離して、陰じゃないけど、陰っぽい所に入れて、やっぱり島があるないで全然違う。4メートル、5メートルの波でも島の近くに行けば風だもん。眠る時もそこで大体ねえ。大正島では、島の近くでは仕事はあまりやらん。すぐ近くは深みに魚がない、漁場は遠いよ。尖閣の魚釣島みたいにすぐ漁場にはなっていない。ちょっとやっぱりこう離れていて。また瀬がねえ、東側は悪いけど、西側は結構緩やかなだわけ。大正島ではやっぱりクルキンマチ、アカマチですねえ。水深300メートルまでやらんけど、大体が200メートルより深い所で。

島近くで操業 シケたら避難 最高の漁場

— 魚釣島近辺だと、すぐ島の近くが漁場だから、操業しやすいわけですねえ。

丸山：、あそこだとすぐそこに島がある。そこからすぐ漁場なのに。尖閣の魚釣島近辺だと、魚釣島、南小島、北小島、それと南小岩、北小岩とかあるさあ。この島なんか全部ツルツルツル漁場でこう繋がっている。

だから操業しやすい。シケた時も、島からすぐ出たら、もう陰になるから、何ともない所からできるから、シケもあんまり考えなくていい。もう漁場が目の前だから、幾らでも仕事できるさあ。もうあんなのは最高ですよ。魚も丁度いい位獲れますよ。あっちやったり、こっちやったり、深い所から浅い所まで、それぞれにやったりで。ほん



魚釣島近くで操業している僚船。(宮崎卓己 2014)

と大正島から、尖閣の西までは、魚釣の西までいい漁場です。ほら一昨年は、海警が来るといって行けなかったけど、去年まではずっと行っていたから、10月からずーと行って、今年の3月入ってまでか、ずっと尖閣に行っていた。やっぱり行って、ほんの何航海でも行ってましたよ。

— 尖閣諸島は最高の漁場なんですねえ、勿論、久場島にも行きますか？

丸山：勿論、久場島も行きますよ。魚釣島のすぐ北東にある漁場だから、よく行っていたねえ。だけど、今は海上保安庁から、久場島では仕事するなど言っていた。今中国の海警が廻っている一番近い島だから、もう久場島の14マイル位来るわけさあ。もう久場島も12マイルから入れないようにするけど、僕らみたいな小型漁船がやっているのをレーダーに映ったら、やっぱり彼らも見に来たいみたいねえ。海警の奴らも。だから海警が今久場島北西側14マイルに来ましたよと、9マイル位、僕らも島にいるわけがないさあ。島から4マイル離れた所で仕事していたら、彼らが9マイル位僕らから近寄れば、ほら島から14マイル位の所になるさあ、で、相手から8マイル、9マイル、見えるわけよ。今日みたいな天気だったら、見えたらやっぱりヤバイだろうと仕事止めてから逃げるわけよ。だから久場島にはあんまり行かないで言うよ。海上保安庁も、水産庁も。

結構あつちは潮が速いからよ。魚釣島の西の海上通った黒潮がこう蛇行した時に久場島の北を通るみたい。久場島も丁度当る場所にあるから西側は潮が速いよ。あつちはアカマチじゃない、シチューマチがよく釣れる。大陸棚に上がった所に島があるから。で、水深は100メートルから100数10メートルだねえ、アカマチがいるということはまずない。

以前水揚げ3,4ト 今2ト 半日魚探し

— 同じ19トの鹿児島船の話だと、水揚げは3トから4ト位と聞きましたか？

丸山：前はねえ、今は2トちょっと釣れば帰って来るよ。前は4トから4ト半釣って帰ってきた。5トも6トもと言うのは大げさだけど、最低で3トから4トは釣って来てた。

ほんで、1人釣機でボンと縄入れておけば、5,6匹とか、10匹とかバンバン揚がっていた。1人2台、浅い所でやれば、やっぱり1人2台あるから、倍は揚がらんけど、釣れるポイント行った時は、漁獲がぐんと上がるから。

鹿児島船はもうプロだし、ベテラン揃いだから、ズーと魚がいる所に行って、やっている。俺なんかは魚探して1日の半分は走っている。GPSに釣れるポイントは一応あるけど、そこに行って魚が釣れなければ、また違うポイントに行かないといかんさあ。

そこが漁場であっても、潮の関係で、魚探に反応がなければ、次から次探して行く。

Aに行ってダメならBに、またBからまたCに行って、漸く魚のいるDに行くが。

でも先輩の鹿児島船はずっとやっているから、Aがダメなら一発でDに行くわけよ。

もう探索する時間もなく、魚を釣って次の漁場、魚のいるポイントに行くまでは1時間以内、30分以内で行って魚を釣るわけ。俺達はそういうことができないから、まず経験がないから、あっちこっち行って、漸く魚が釣れるさあ（笑い）。

尖閣では行った先、行った先、魚が釣れたのは昔の話よ。もう獲り過ぎたかも知らんが、今はもう昔のように魚は釣れないんだからねえ。

— お父さんが船を持っていた最初の頃は、相当釣れたわけですねえ。

丸山：あの頃はあの頃で、相当釣れていた。でもあの頃はこんなGPSが発達してない

から、前釣ったポイントに行こうとしてもAローランで確実に行けんわけよ。近くに行っても、ほんの微妙な所を当りきらんで違う所に行ったりで。でも行き当たりばったりでも相当釣れていた。行く先行く先に魚がいたから、魚に恵まれていたかも知れん（笑い）。

僕が船に乗った最初の頃は、ローランが利かないからメーウキを大部積んでいた。魚が釣れると、そこにアンカーブイ入れて、ポイントを目印にしてねえ。アンカーブイは、海底があって、海面があって、アンカー入れて、浮き付けて、それに目印の旗をこう立てるわけ。ブイ付けたら潮の流れで、沈んでしまうわけさあ。ブイがあって旗でポイントが分かるようにと。あとになったらローランが利くからと、ローランもほんとに上等上等に替えていつてから。大部上等ローランを付けてましたよ。Aも、Cも。

ものすごい波かぶる 危険考えたら 海行けない

— 18歳で船に乗って、尖閣諸島に行った時は、危険、怖いと思いませんでしたか？

丸山：特に危険？ もう怖いと言え、今は中国船ですよ（笑い）。18歳に行った時に怖いですよ。それは様々でしょう、人間の考え方ですよ。俺なんかそんなこと考えてなかったもん。それ考えたら海行けないはずですよ。でも、尖閣行ってシケていた時は、最初に行った頃なんか、もう見えないですよ。

雨合羽着てから、人の目の前もよく見えていなかったから、皆そうはず。今新しく、自分の息子がちょっと船に乗ってましたよ。ほら何十年ぶりに新人だから、皆自分が乗り初めた時のこと忘れてる。あの子にすごい期待したのはいいけど、できないって。すぐの子はもう目の前すら見えてないから（笑い）。やっぱり、皆は自分と同じ位できると、もうそういう気持ちで、もうそれが人間なんですよ。雨合羽着ていても、ものすごい波を被るさあ。もうウエイトスーツと一緒に、雨、波、なおかつ身体は一緒になるからねえ、あれ着てでも、しぶきとか湿気で、やっぱり荒波は悪いけど、この大雨もすごいですよ。大雨の時も話にならん。3月から10月の冬の時期に行くから、あつちは潮が速くて、風と波がぶつかって荒れると、半端じゃない、もうすごいですから（笑い）。



少しシケると、雨、風、波のしぶきを被る。雨合羽着ても用なさない。尖閣の冬はものすごい。（宮崎卓己 2014）

雨合羽着ていても、ものすごい波を被るさあ。もうウエイトスーツと一緒に、雨、波、なおかつ身体は一緒になるからねえ、あれ着てでも、しぶきとか湿気で、やっぱり荒波は悪いけど、この大雨もすごいですよ。大雨の時も話にならん。3月から10月の冬の時期に行くから、あつちは潮が速くて、風と波がぶつかって荒れると、半端じゃない、もうすごいですから（笑い）。

台湾船 結構いた オキ縄・セ縄？

— その頃、尖閣諸島には台湾船が来ていたようですが、どうでしたか？

丸山：台湾船は結構いましたよ。突ん棒していたのを見ました、今はいないなあ、今は

前はいました。カツオ船みたいな、前にモリ持って立っていたから、あれは明らかに突ん棒船です、突き台があって、3人位乗っていたんじゃないか。あんまり沢山乗っていません。突ん棒船の他は、一本釣船と延べ縄船がいたわけよ。延べ縄は何を獲っていたか分からん。オキ縄か、セ縄(マチ縄)だったか分からん。でも台湾船はセ縄はあんまりいないみたいだった。だけど分からんさあ、彼らは何でもできる人だから。その時その時で何でもやるから。もうほんと何でもやるよ(笑い)。

台湾船は、筏を積んで、竹筏にも乗って? そうそう、確かにいましたはねえ。尖閣でも前は。だけど台湾の方に行けば、アジンコートが見える所に行けばもっといましたよ。それとか紅頭嶼の近くにもいました。あの辺で仕事した? いや、僕らは仕事できないさあ。12カ所の領海があるから。南シナ海に行く時見ただけだから。

尖閣 アカマチ狙い シチューマチ 小さい

— 尖閣諸島のシチューマチは、小さいと言われてますが?

丸山: そうですねえ、今も小さい。ほんと小さい、あとの魚は結構でかいですよ。クルキンマチも、マーマチも、同じ水深でねえ。マーマチなんか120メートルの水深、この辺(南西諸島)も一緒だ、尖閣の奴は結構でかいよ。シチューマチだけ小さい。前はこの板箱に、あっちから、こっちから入れて、真ん中に入れる位の大きさだったけど、今こんな小ちやい(笑い)、ますます小さくなって、今は50匹位入るはずよ。もうイワシか、小さいタイがいるでしょう、あんなものよ。小さいのは何でかなあ。確か宝山なんかのシチューマチは大きいです。3倍位はあるから。

— 尖閣諸島で釣れなければ、宝山とか、大丸とか、釣ってくると聞きましたが?

丸山: そうそう、海栄丸の場合だと、まずは尖閣にアカマチ狙いに行くわけ。

アカマチ釣れなくて、シチューマチ、クルキンマチ釣るんだったら宝山・大丸に。あっちのは形が大きいから。だけど尖閣である程度釣れたら、それでそのまま帰ってくるわけさあ。尖閣は黒潮の通り道だけど、宝山は黒潮から外れているから、よっぽどじゃないと1週間位いても3日は潮が悪くても、あと4日はどうにか、4日ちよつとずらしたら魚が釣れるという感じ。それにアカマチは宝山にはあまりいない。宝山にアカマチ狙いに行く船はいないはずよ。



尖閣はアカマチ狙いに行く。釣り上げたアカマチ

那覇地区辺りマチ釣船は行っているか分からんけど、僕等はアカマチ狙いで尖閣に行きますよ。だけどアカマチだけ狙っていても仕事ならん。釣れる時に1日2,300匹釣れるけ

ど、釣れない時はもうほんの僅かだから、これでは仕事ならん。何でもかんでも釣れる魚を釣って来るさあ（笑い）。

アホウドリと共存 サメ・イルカ どうにもならん

— マグロ船もそうですけど、釣った魚は、サメとかに食べられますか。

丸山：アホウドリは尖閣諸島沢山いますよ。俺達が釣った魚、小さい魚なんかもって行かれるけど、これは愛嬌可愛いですよ。もうアホウドリとは共存してやってますよ（笑い）。

だけど、サメとか、イルカにはもうどうにもならん（笑い）。でも潮によって、サメが食う場合と食わん場合がある。一日のうちでも、何回か変わる。これ不思議だよ。

サメが近くにいるか、いないか分からんけど、時間が来たら、サメにスイッチが入るか知らんけど、魚を横から食い盗るわけさあ。海の中だから見えない。でもある程度の時間が来たら、パッと一斉に盗らなくなる。サメは全くいたずらしなくなる。これ不思議だ。何かのスイッチがあるはずよ。潮の回りとか、何かの月の加減とか、何かかが、これ俺達が理解不可能。それでやっぱり船が3隻位いたら、沢山釣っている船にはサメがすぐ行くみたい。沢山釣っている方に行くから（笑い）。

サメの種類？ 尖閣のサメは上がってこないから分からん。宝山、大九のは、たまに船の近くまで、こうやって、ジョーズの映画みたいに口開けて魚に付いてくるから、これを釣るから分かる。アオザメとか、イタチザメですよ。尖閣のはそんなのじゃない。見えない所にいるから分からん。サメに魚盗られたら、道具根こそぎなかつたりして（笑い）。

イルカも魚盗りますけど、針まで盗らない。魚啜ってから引っ張るみたい。でもサメは全部、魚を丸ごとパックと食べるわけ。そういう感じがする。まれに半分ちよん切ったり、頭しか揚がらなかつたりするサメもいるけど、海の底に潜って上がってこないから分からん。イルカだとすぐ分かる。船と一緒に飛んだり跳ねたりしているから。その時は低周波数装置あります。あれはイルカには効くけど、サメは何も効かん。

だからサメにやられたら、こっちが逃げるしかないですよ（笑い）。

中国海警 押しかけて 仕事できない

— 今とくに、尖閣諸島で、漁に支障きたしていることは何ですか？

丸山：僕らも、一昨年は尖閣は2、3回しか行ってない。2航海位しか行ってない。早い時期に行ったから、3航海行きましたねえ。でも向こうで、去年の暮位から国有化が何とかいって、中国がうるさくなってから、



尖閣諸島に押しかけた中国公船(下)。退去を命じる海上保安庁巡視船(上)。(「ウェブサイト」より)

もう行かなかったですねえ。先に行った鹿児島船があの中国の海監、海監からちょっとにらまれたみたいで、海上保安庁がこっちに船を回避しなさいという回避ばかりで仕事にならなかったと言うてました。今は、海警が来ている。だから怖くて、海上保安庁は、行くなとは言わないけど、もし事故があったら、保障できませんよ、とやっぱり言うもんねえ。だからそんなこと聞いたら、もう行きたくなくなる。行っても、中国の海警に見つかったら何しに来たかという格好で、追廻すから、前のように自由には仕事はできないですよ。もう12カ月の領海内で操業ばかりし。

尖閣は中国から盗られたら日本は終わりです。だけど自分達漁師に言わすれば、全然行かれんわけだから、もう半分は盗られた格好やもんねえ。今1番支障きたしているのは海警さあ。政府は早くどうにかしてほしいですねえ。

最盛期 僚船30隻超 今減って6,7隻

— 今年になって、沖縄を基地にした一本釣船で、船辞めた人がいると聞いてます。これも尖閣諸島に行き辛くなったためですかねえ。

丸山：鹿児島船も、沖縄基地にした船は6隻から4,5隻になりました。尖閣に行き辛くなって辞めたのは分からない。事情はいろいろあったと思うけど。僕らの仲間は、前は30隻以上いたのに、今はもう6,7隻かなあ、もう相当減っている。仲間が減って、僕達は仕事にしんどいですよ。情報がないさあ、もう尖閣に行くにしろ、冬はやっぱり尖閣か、与那国しか行かんから、尖閣にいる船にどんなですかと聞いたら、どここの島辺りはあまりよくないよ。どこか移動しようかねえと言ったり、どこここは漁はいいよと言ったりで、結構船が多いといろんな情報が入って、動きやすかった。皆の情報はすぐ聞けたさあ。

今は情報を聞く相手もない。だから僕達も仕事しんどい。

操業船 大半中古船 新造すれば1億円近い！

— 丸山さんの海栄丸は、後継者も育て、いよいよこれからですよねえ。

丸山：長男は学校卒えて一時は船乗っていたが、今大学行っている。次男は水産高校1年で卒業したら船乗る予定。その意味では後継者も問題はない。だけど、このまま一本釣を続けて行くにはいろんな悩みがあるさあ。油の問題とか、魚の値段とかは別にしても、問題は多いよ。一番の悩みは船のことですねえ。この海栄丸は途中で買ったけど、最初の船は、俺がとにかく憶えている船は、昭和43年か44年に親父達が木船を造っている。

この初代海栄丸に乗って、親父達は沖縄来た。そのあと昭和53年にFRPを新造して、僕が乗ったのがこの2代海栄丸。これが老朽化したから、平成11年に今の3代の海栄丸と買い替えたわけ。いずれも19ト。20ト以上になると、国管轄になるから、検査が難しくなる。沖縄の船も19トばかりでしょう。19トより大きい船はいないですよ。

今の海栄丸はもう14年になる。まだまだ使えるけど、やっぱり中古船だから、いずれ買い替えるか、新造しないといかん。この間造ったマグロ船は、1億7千万と言った。

俺達みたいな船は最近造る人がいないから知らんけど、この間つい 1 年前に下ろしてきた船がそのこと言うたよ。俺達みたいな一本釣船でも、1 億近くは掛かるかも知れん。

正直言って、今でも経営は苦しいさあ。維持するだけで精一杯よ。船の買い替え、新造なんてできっこない。船が使えなくなれば、もう廃業するしかないさあ。

一本釣船 尖閣国境の守り 国 育成策を、

一 丸山さん達一本釣船が行って、そこで操業していることが、尖閣諸島を実効支配しているわけです。それに一本釣を辞めれば、これを再生させるのは難しいはずです。

丸山：ここ那覇地区からは前は一本釣船が尖閣へ相当行ってましたねえ。これも行かなくなつて、俺達の熊本船とか、鹿児島船、宮崎船、大分船とか 30 隻は行っていたねえ。

だけど、今は段々少なくなつてもう 10 隻にも満たん。これもこのまま減つて行って、尖閣に誰も行かなくなると、中国の思いのままになるかもしれない。

確かに、日本の船が、俺達が、尖閣に行つて、そこで操業していることが、尖閣は日本のものとして、実効支配していることになるわけだ。

一本釣の船は、皆中古船で、いずれ船を買い替えるか、新造するか、せんといかん。

だけど経営が苦しいから、船使えなくなると、もう廃業するしかないよ。

それに一旦廃業したら、漁師を集めるのも大変だし、一本釣船を再興するのは、もう不可能ですよ。一本釣を続けさせるためにも、国の方から、船の買い替え、新造のための補助とか、資金援助とか、何かがあればいいんだけど。

一 尖閣諸島での一本釣を絶やさないためにも、政府による育成補助策ができるといいですねえ。今日は有難うご座いました。 (了)



一本釣船の操業を見回りに来た海上保安庁巡視船。国境漁業は厳しい。そこで操業していることが日本の実効支配の有力な証。(宮崎卓己 2014)

- ※ 鹿児島漁船は、「尖閣研究 尖閣諸島海域の漁業に関する調査報告
—沖縄県漁業関係者に対する聞き取り調査— 2012年」(2013年刊)
「1章1-1 追補 鹿児島喜入町漁協」より
また、熊本漁船は、同上「2014年」(2015年刊)
「1章1-2 鹿児島・熊本県漁協関係者」より
転載しました。